



サーカス観覧



生介⑤班
温泉・焼肉外出



里だより

No.386

令和6年3月1日

一発行一

菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579



行事予定・
ありがとうございました
編集後記……………7



医務より・行事報告……………5

職員より……………4

主任より……………3

サビ管より……………2

施設長より……………1

(ページ)

三月号もくじ



つくしの里 ホームページ

<http://www.tsukushinosato.or.jp>



施設長より

年度末と報酬改定



年度末が近づき、施設においては次年度の事業計画の作成も終盤を迎えています。

併せて、令和六年度は、三年越しの報酬改定が行われます。職員の処遇改善を含む、地域生活の実現や医療と福祉の連携、包括的な支援が盛り込まれます。障がい分野は二月六日に概案が示され、その確認や今後の対応に関係各所あわただしい状況なのではないでしょうか。当法人に関する主な事項は左記のとおりです。

- 現行の処遇改善加算の一本化及び加算率の引き上げ
- 強度行動障害を有する障害者の受入体制の強化や「中核的人材」の配置、「集中的支援」について評価（生活介護・施設・グループホーム等）
- 障害者虐待防止措置や身体拘束の適正化等、必要な基準を満たしていない場合の減算の導入・見直し（全サービス共通）
- 通所系サービスにおける食事提供加算の見直し
- 物価高騰を踏まえた入所施設における補足給付の基準費用額（食費・光熱水費）の見直し
- 障害福祉現場の業務効率化（全サービス共通）
- 感染症発生時に備えた医療機関との連携強化（入所施設等）
- 入所利用者に対して、地域移行の意向を確認。グループホームの見学、地域活動への参加等の評価。
- 入所施設における十人規模の利用定員の設定
- 入所施設から地域へ移行し、入所定員を減らした場合の加算

を創設

- グループホームから希望する一人暮らし等に向けた支援の評価

● 世話人の配置基準に応じた基本報酬区分を改め、サービス提供時間の実態に応じて加算する報酬体系へ見直し。

● グループホーム等において地域連携推進会議を設置し、地域の関係者を含む外部の目を定期的に入れる取組を義務づけ

● 支援の質の高い相談支援事業所の整備を推進するため、機能強化型の基本報酬を充実。

● 地域の中核的な相談支援事業所の主任相談支援専門員を更に評価

● 相談支援における医療等の多機関連携のための各種加算の拡充

全体的には報酬増のようですが、その内容は人員の配置を増やして取れる加算なども含まれます。

現時点での当施設の体制では、なかなか対応が難しいものも多いようです。これまで同様の運営・経営を維持するには、どのようなことが必要かを模索しなければなりません。示された改定案について、今後、詳細な内容が分かってくると思いますが、関係部署と確認をとりながら対応を進めてまいります。



施設長 松永一博

サビ管より

宝物探し



まだまだ寒い日が続きますが、少しずつ日が沈む時間も遅くなり、春の訪れを感じる時期となりました。桜の開花が待ち遠しいです。

さて、利用者さんと接し、行動や様子を見てみると、色々なことを感じたり発見したりします。例えば、グループホームの男性利用者 Kさんは、言葉が不明瞭で相手に伝わりにくいこともあり、自分が欲しいものを絵に描いて担当職員へ持ってこられます。その絵は相手に伝えるために細かいところまで描写されています。また、就寝や起床、トイレへ起きた時間、何をどれくらい飲んだかなど、時間と絵を描いて記録として残されまます。そうした記録を見るたびに、絵が独創的で「ほっこり」とした気持ちになります。そして、特技を活かした自分なりの伝え方の工夫に感心させられます。Kさんにとっては、単なる記録や伝えるために描いている絵だと思いますが、私たちが一日の行動や状況を「ほっこり」するような絵にして伝えてくださると言われたらできるでしょうか？到底、私にはできません。それができるKさんの強みがうらやましく、いつもその絵に元気をもらっています。

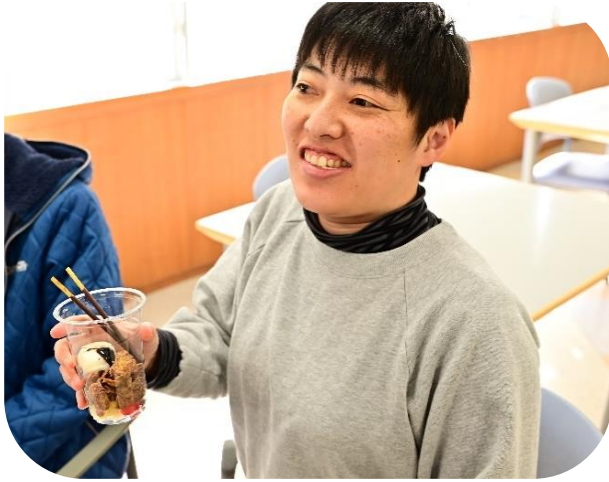
同じグループホームの女性利用者 Kさんは、毎日、自分から挨拶をされます。挨拶が返ってこないと返ってくるまで挨拶を続けられます。職員に対しても同様です。挨拶を返すとKさん

は満足され区切りがつかます。Kさんからの挨拶に職員や利用者さんが気付かない場合もあります。やはり、返事が返ってくるまで挨拶されます。周りから見れば「しつこい」と捉えられることも多く、トラブルに繋がることもしばしば。しかし、その言動は本当にしつこいのでしょうか。挨拶をされたら挨拶を返す、それは当たり前のことで、挨拶が返ってくる期待を持つのも当たり前だと私は思います。挨拶を返さない方が失礼なのではないでしょうか。

別の日には、Kさんがスリッパを反対に履いている利用者さんに「スリッパが反対」と伝えますが、言われた利用者さんは、理解ができずに正そうとしません。Kさんは何度も伝え続けました。そのやり取りを見ていた他の利用者さんは「しつこい」と言い、Kさんからその方を遠ざけます。遠ざけるだけでは問題は解決しません。正しく履き直してもらおうと、すぐに納まりました。スリッパを履き間違っていたから教えてくれただけのことです。伝えることは何も間違っていないから教えただけという理解できていないようであれば、職員や周囲の方が分かりやすいように伝えれば、Kさんも区切りがつかます。そのようなKさんの言動に、よく周りを見ているなど感心します。

日常の利用者さん同士のやり取りや利用者さんとの関わりの中には、常に新しい発見があります。起きている事象だけに目を向けるのではなく、なぜ起きたのかを考えることも支援者には必要です。紹介した男性利用者 Kさんのように、本人にとっては毎日当たり前で描いている絵だとしても、物の捉え方や感受性が独特の描写として表れており、少し違った角度で見るだけで強みを見つけられます。

施設PR委員会 今月の1枚!



バレンタイン調理実習♪
アイスクリーム、チョコソース、果物などなど
盛りだくさんパフェの完成☆彡

当たり前に接している、当たり前に支援している、当たり前に見ている、その「当たり前」から、ちよつとした変化を自分に与えることで違った物の見方ができ、利用者さんの強みや弱みを発見でき、まるで宝物探しのようです。その宝物探しが、何より自分自身の成長にもつながってくると思っています。

これからも、人とのふれあいを大切に、利用者さんやスタッフの宝物探しをたくさんしていこうと思います。

支援係長 竹下 幸樹

主任より

コロナ禍では、福祉施設の実習はオンライン、もしくは実習自体を受け入れない状況でしたが、施設見学や研修等と同様に、やっと対面での実習ができるようになりました。当施設も今年度、県内の大学からソーシャルワーク実習の受け入れをするこ
とになりました。

令和に入り、厚生労働省より「社会福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて」が公表され、その内容を踏まえ、令和三年より新たな社会福祉士養成課程に基づく養成教育が開始されています。大きく変更された内容として「実習の時間を一八〇時間から二四〇時間に拡充し、二以上の実習施設・機関で実習を行う（一の実習施設・機関で一八〇時間以上の実習が基本）」と改正されました。二四〇時間を多いとみるか、少ないとみるか考えると、他国での一〇〇〇〜一二〇〇時間と比較すると断然少ないようです。その二四〇時間についても「機能の異なる二か所以上の実習施設等での実施」とされています。機能の異なるとは、例えば、一か所目は障害者支援施設で一八〇時間、二か所目は社会福祉協議会で六〇時間というように、実習生が複数の実践現場での実習を経験することによって、多様な場・形態で存在するソーシャルワーク実践を理解することを目的とされています。

さて、当施設の実習受け入れ実績は、もともと入所施設は実習先として敬遠されがちな上、少子化で大学や養成校の学生も減少していることから、ここ数年は実習生を受け入れることはありませんでした。しかし、今年度やっと県内の大学から三年

生を二名受け入れることになりました。

実習生を受け入れるにあたって、実習指導者要件の厳格化、養成校との事前協議、実習生等受け入れ規程の作成他、学生との実習計画書についての打ち合わせ、施設内では実習生受け入れマニュアルの確認等々、準備すべきことが多くあります。

社会福祉士課程の実習先として、医療機関、高齢者介護施設、児童を含めた障がい者支援施設等、数ある中から当施設を選んでいたことを心に留め、学生が少しでも福祉に魅力を感じ、就職先として選んでもらえるよう、学生自身が実習の目的を達成するために、限られた資源（人・物・時間・情報、ノウハウ等）を効果的、効率的に活用できるように、実習指導者として新人の私も実習をマネジメント、プログラミングできるように、学びを深め準備を進めます。

昭和生まれの私、社会福祉士の勉強も働きながらだったため、学生がどのようなカリキュラムで学び実習に臨むのか。

実践現場では「ソーシャルワーク」という表現も市民権を得て「相談援助」という言葉を使用するようになり、実習指導者講習会では、講義や演習についていくのに必死でした。

学生も、実習を行うにあたっては不安や心配が多いと思います。が、実習指導者の私も新人で同じ気持ちでいます。実習生が安心して、安全な環境で、利用者さんの実際の生活を体感し、実のある実習になるよう、学ぶ環境の調整と学びの促し、そして意欲を支え、また私自身も、受け入れ施設として職員全体で、準備を万端にして迎えたいと思います。

主任支援員 長渕 さくら



職員より



いきいきグループには、折り紙等で輪っかを作るのが上手な利用者さんがおられます。寝るのも忘れてしまうぐらいに集中されます。せっかく作った輪っかで何か作品ができないかと班職員で考え、月ごとに季節に合ったものを窓に飾るようにしました。12月はクリスマスツリー、1月は鏡餅と凧、2月は鬼。「これお餅に見える？」「凧に見える？」と試行錯誤しながら作りました。出来上がった作品を見て利用者さんが喜ばれると良かったなと思います。私は不器用なので、上手に出来ているかは…。ですが喜んでいただけるので3月も頑張ります。（支援員 村上）



早いもので自衛官を定年退職してから、つくしの里に入職して10年が経ちました。入職当時より、ある女性利用者の方から「お父さん頑張って！」との声援を毎日の様に掛けて頂き、日々の励みに過ごしてまいりましたが、その声援も現在は「おじいちゃん頑張って！」に変化しています。お父さんからおじいちゃんへの変化は、ただ単に白髪やしわが増えた容姿の問題なのかな？と、特に気にもせず居たのですが、勤務時間前に煙草を吸って咳こんでいたら「大丈夫？煙草は体に悪いよ！若くないんだけん」と声を掛けてくれた利用者さんがいました。支援員は利用者さんの体調や心理状態を常に意識しながら支援をしておりますが、利用者さんも支援員の行動をちゃんと見ていて気にしてくれるんだな～と嬉しくなりました。40年以上喫煙をしていると簡単には禁煙出来ないと思いますが、おじいちゃん支援員として頑張る為にも、体力や健康管理に充分注意していきたいです。（支援員 後藤）

医務より

令和5年度の健診がすべて終わりましたので、結果を今月号に同封しています。ご確認ください。再検査の指示のあった方の受診は終わっています。結果について何かありましたら、いつでもご連絡ください。

今冬は、例年になく暖かい日が続いています。2月に20度近い気温の日もあり、過ごしやすければ過ごしやす日々です。暖かいからインフルエンザが影を潜めているかと思いきや、通年流行中。流行型はA型からB型に変わっているようですが。そして暖かくなり心配になってくるのが花粉の飛散。毎年症状がみられている利用者さんは、今年は早めに病院を受診し薬は準備済み。花粉症対策万全で春を待ちます。

感染性胃腸炎、新型コロナ…とまだまだ気を抜けない毎日ですが、感染対策をしながら外出や春のイベントを楽しんでいきたいと思ひます。(看護師 松村)

行事報告

※ 1/21(日)～2/20(火)の実施分について報告いたします

★ サークス観覧【1月15日(月)・25日(木)・2月1日(木) 菊陽町】

テレビでも宣伝していた「ポップサーカス熊本公演」に3グループに分かれて観覧に出掛けました。利用者さんに希望を聞き「行きたい!」という方を対象にしました。

大きな音にビックリする利用者さんもおられました。空中ブランコや犬の可愛い演技に「お～」と手を叩かれていました。引率した職員も見入ってしまう程でした。

観覧された利用者さんたちは「おもしろかった!」「また行きたい」「一生の思い出になりました!」と話されました。サーカスを観る機会は少ないと思ひます。今後も機会をみつけて色々なイベントに参加したり、体験したりしたいと思ひます。(支援員 東)

★ 生活介護⑥班外出【1月24日(水) 和水町・菊池市】

和水町にある家族湯「上弦の月」と「紅さんざし」、菊池市にある「焼肉いしい」へ出掛けました。当日、熊本県は大雪が降り決行するか直前まで悩みましたが、皆さんがとても楽しみにされていたので外出しました。

温泉は全室に内湯と露天風呂があり雪景色を楽しみながら入浴しました。「気持ち良かった」「ゆっくり出来た」「(雪が降っていて)寒かった」など様々な感想がありました。寒かったですが、雪の日の入浴は良い思い出になるのでは思ひます。

昼食はお店の一角を貸し切り、美味しい焼肉ランチ、鉄板焼き定食などをいただきました。ご飯・みそ汁のおかわり自由、お肉は柔らかく、デザートもあり、そして仲間とワイワイ話しながら食事ができて大満足といった様子でした。

焼き加減の好みや、メインとジュースとデザートの利用者さん個々の嗜好など、日頃見られない一面を見ることができました。年を重ねても、経験を広げる事、社会参加は大切だなど感じた外出でした。(支援員 田中)



★ 節分会 【2月6日（火）つくしの里】

いきいきグループは新棟ホール、きらめきグループは学習訓練棟 2階で実施しました。本来は鬼に豆を投げる行事ですが、当施設ではカラーボールを投げて鬼退治を行いました。鬼が来ると率先してボールを投げる方や、職員と一緒に投げる方、それぞれの方法で楽しまれたようでした。その後は、プリンや甘納豆を味わい、一息ついて節分を締めくくりました。
(支援員 小城)

★ 味千ラーメン訪問 【2月15日（木）つくしの里】

味千ラーメンのキッチンカーに来てもらい、みんなでランチにラーメンを食べました。1杯では足りない利用者さんには、おかわりのラーメンを出してもらい、ボリューム満点でした。お店でしか食べられない味を楽しむことが出来て、利用者さんも「おいしかった」「お腹いっぱいです」と大満足でした。食後には、味千ラーメンのスタッフさんに手作りのメッセージカードやお礼の言葉で感謝を伝えました。職員もご馳走になり、お腹も気持ちも温まるイベントになりました。
(支援員 尾崎か)



行事予定

3月



☆ バイキング昼食会 (つくしの里)

期 日：3月7日 (木)

内 容：カップ寿司・なすのミートグラタン・よだれ鶏…、普段の献立とは違う料理も並びます。美味しい楽しい食事になりそうです♪

☆ 面談・通帳確認 (つくしの里)

期 日：3月1日 (金) ~29日 (金)

内 容：下期経過報告と支援計画原案作成に係る面談をさせていただきます。
日程については担当からご連絡いたします。

☆ 施設・後見人・家族情報交換会 (つくしの里 学習訓練棟)

期 日：3月30日 (土) 10:00~14:00

内 容：当初の予定から期日を変更しました。次年度の事業計画等、午前中は全体会、午後は各班に分かれて重要なお知らせをさせていただきます。
ご多忙の折とは存じますが、是非ご出席ください。



ありがとうございました

今月の掲載分は、
令和六年一月二十一日〜
令和六年二月二十日です



編集後記

つくしの里の梅も花が咲き、春の訪れを感じます。季節外れの暑さかと思うと、天気予報では冬の寒さに戻る予想の時もあり、体調管理が難しいですね。

さて、令和五年度も残すところ一カ月。年度末に向けて例年どおりの慌ただしい毎日です。心身の平穏を保つのは難しいですが、なんとか乗り切ろうと思います。

- 【寄付・寄贈】
- ・清田すま子 様
 - ・竹山眞事 様
 - ・古川信子 様
 - ・光永順子 様
 - ・トキロロ 様
 - ・後藤弘子 様
 - ・藤田孝志 様
 - ・行弘美希 様
 - ・平田靖人 様
 - ・カモメ 様

- 【ボランティア】
- ・村里和洋 様
 - ・木本ふじ子 様
 - ・トキロロ 様
 - ・カモメ 様

誠にありがとうございました。
利用者さんの為に使わせて頂きます。



※お詫びとおことわり

里だより担当では、毎月十分注意して、記事の記載、確認をしておりますが、誤字脱字等がございましたら何卒ご容赦していただきたく存じます。

